

企業の一生と経営モラル

アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)

創業者・最高顧問

おおたけ よしき
大竹 美喜



1960年広島農業短期大学(現県立広島大学)卒業。1974年アフラック創業。副社長、社長、会長を経て2003年より現職。(社)経済同友会幹事、(社)ニュービジネス協議会副会長、社会福祉法人東京都社会福祉協議会会長を歴任。(財)国際科学振興財団会長、経済産業省キャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム関連事業評価委員会委員長、日本アスペン研究所理事。

私は今から三六年前の一九七四年にアフラックを創業、日本で最初にがん保険の販売を開始した。まだ三五歳と若かったことから副社長に就き、一年務めたあと、四六歳で社長に就任した。就任する一ヶ月前にアメリカ本社の創業者に訊ねられたことがある。

「社長として大切な仕事は何だと思うか?」素直に答えた。「利益を出して本社に送金すること」ところが返ってきた答えは違っていた。

「次のリーダーを選ぶこと」だと言うのだ。これには本当に驚いた。私はまだ社長にもなっていないのである。社長に就任する前に引導を渡された思いだったが、後にこの言葉を実感することとなった。

話は遡るが、私がアフラックを創業したとき、「企業は永遠に続かなければいけない」という意識を持った。「企業は誰のものか」と考えたときに、もちろん自分のものでないことは分かっている。お客様のものだと確信したからだ。そこから自然と「企業は永遠であるべき」という哲学を持つようになったのである。

人間をはじめとして、生きとし生けるものは皆、いずれ死を迎えなければならぬ宿命をもつてこの世に生を受ける。企業にも人間と同じように「企業の一生」というものがある。「誕生期」「少年期」「青年期」「成熟期」「衰退期」

とほぼ人間と同じような一生をたどる。

しかしながら、企業の一生が人間の一生と違うのは、人間はいずれ死を迎えても、企業には衰退することはあっても消滅することは許されないのだ。企業の経営者には、滅びさせてはいけないとの一心得で努力し、そして永遠に存続させる責任がある。

昨今、我が国ではお客様がないがしろにされ、「ごまかし」「偽」「嘘」「見栄」が蔓延した偽装列島になっているというきらいがある。いや、日本ばかりではあるまい。世界中のあちこちで生活者が大きく欺かれ、大きな経済問題、社会問題に

なっていることが多い。ときには健康被害まで引き起こすこともあるから事は重大だ。そしてそれらの問題を引き起こした企業のなれの果ては言うまでもない。市場からの退場を余儀なくされる。

このようなモラル意識のなさ、責任意識を欠いたリーダーに率いられては、企業はひとたまりもない。まさに企業の自殺行為と言え。この時代、企業は以前にも増して社会的責任というものが強く求められている。

我が国資本主義の父といわれる渋沢栄一翁のご存知のように、幕末から昭和六年に亡くなるまで活躍をされ、「私利を追わず公益を図る」という考えを生涯に渡って貫き通し、彼の後継

者にまでその思想を徹底し、公共への奉仕を実践した。今の日本の基盤を作った昔のリーダーたちは、みな高潔で偉大であった。学ぶところは本当に多い。

さて、話をはじめに戻るが、リーダーの仕事は「次のリーダーを選ぶこと」と実感したと申しあげた。永遠に存続する企業であるためには、リミットレス・リーダーシップが必要なのである。そして、その一番重要なことであり、難しいことは次のリーダーを選び、バトンタッチするタイミングを選ぶことであることは言うまでもない。私もこれに習い、四六歳で就任した社長を九年間務めて交代した。

現在、いろいろな場面で目にする失敗例。企業に限らず政界、学問の世界、その他の世界でもうまくバトンタッチができていないとは限らない。数えあげればきりが無い。

企業を永遠に生かすのは本当に苦勞の多いことであるが、永遠に存続させ繁栄させるのも、また消滅させるのも、リスクを背負い奮闘するリーダーにかかっている。

人生と同じように、充実した企業の一生を実現するためには、モラルに敏感で、責任感に満ちたリーダーがこの時代、特に必要だ。



次号は、イマジニア(株)代表取締役会長兼CEO、神藏孝之氏にお願いします。

(敬称略) 小長啓一→野々内隆→根来泰周→石弘光→武藤敏郎→高橋温→増田寛也→西澤潤一→内田盛也→中原恒雄→今井敬→室伏稔→上鳥重二→西室泰三→依田巽→重延浩→吉村作治→中川武→池内克史→中島秀之→元村有希子→石倉洋子→内永ゆか子→秋池玲子→富山和彦→五藤信隆→伊藤公平→吉田晃→森浩生→井田純一郎→前田伸→澁谷耕一→蓑田秀策→武内英史→大澤真→谷口智彦→洪澤健→野田智義→三谷宏幸→グレン・S・フクシマ→柏木茂雄→橘・フクシマ・映江→新浪剛史→奥谷禮子→金丸恭文→竹川節男→長谷川澄雄→田中一夫→大沼淳→永谷栄一郎→数原英一郎→堀内光一郎→片山龍太郎→島田晴雄→大竹美喜